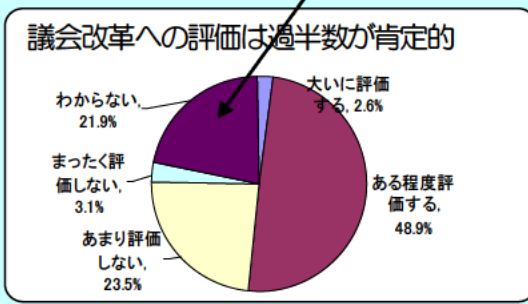
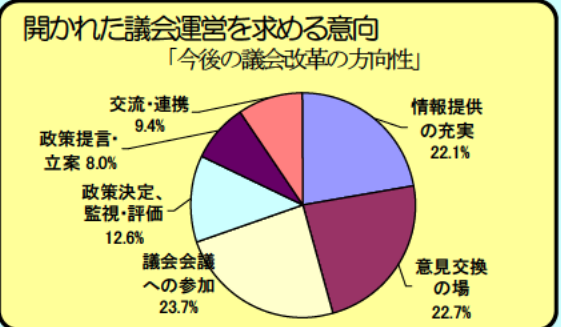
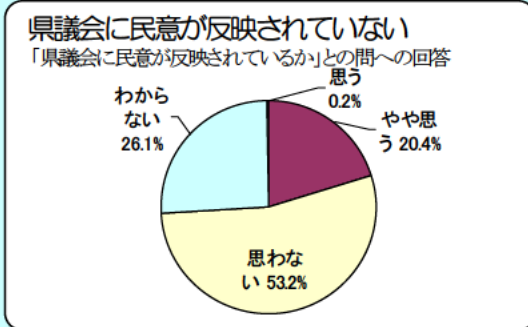
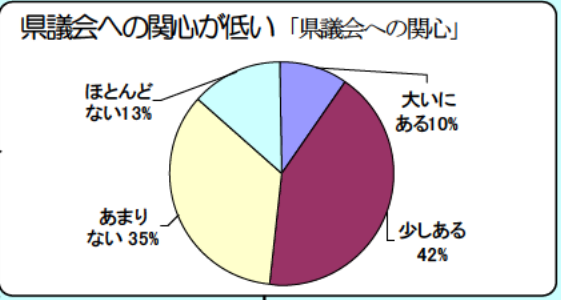
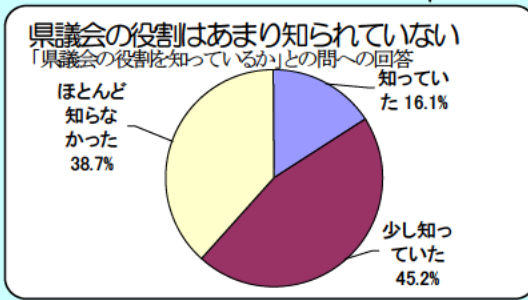


三重県議会の議会改革にかかる各種調査の結果概要(三重県議会の現状と課題)

■□ 県民 □■



議員活動に対する厳しい目(資質向上、全体利益の視点、民意反映)を求める意見が多い *自由意見回答

県議会の取組(議会改革)が認知不足で分かりやすい広報を求める意見も多い

意識の相違

■□ 県議会 □■

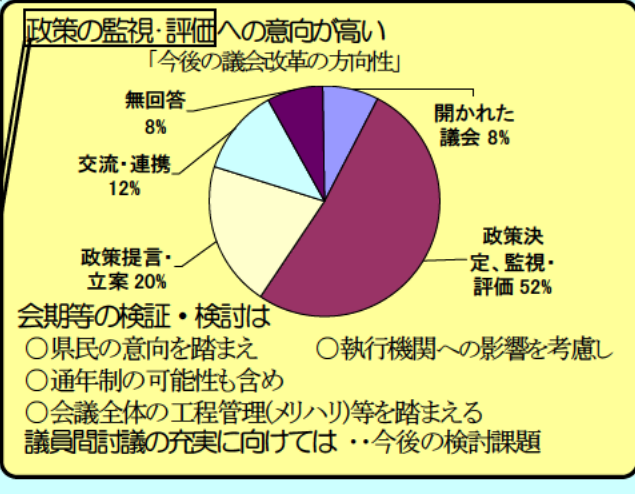
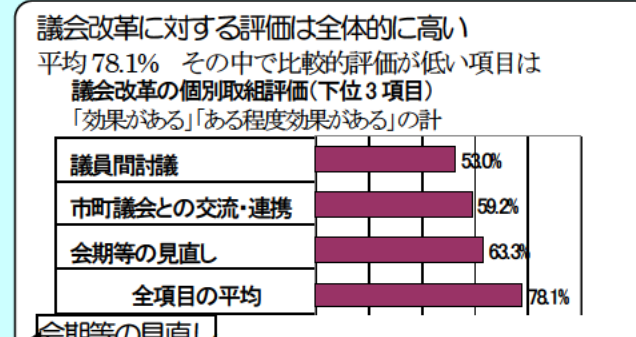
議会は既に十分開かれているとの認識
*議会への住民参加は効果がある 85.7%

一方
○県(議会)は遠い存在
○議会の役割も知られていないとする意見も多い

開かれた議会を進めていくため
地域ごとの「県議会報告会」
一般県民向けの「出前講座」など
住民と直接対話できる機会や
県議会だよりの改善、マスコミやインターネットの活用など情報発信の工夫が必要

住民は身近な市町には関心があるとの認識があるものの
市町議会との連携の評価は比較的低い
その理由は、県(議会)への陳情・要望の場になってしまう

市町との連携は今後もあまり重視されない
*今後の方向性で交流連携は 12.2%しかない
もし、交流・連携するのなら
○研修会の共同開催
○二元代表性の意義を広める



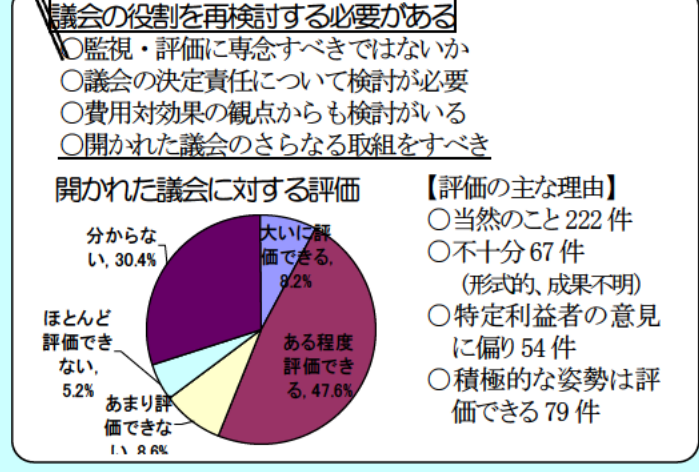
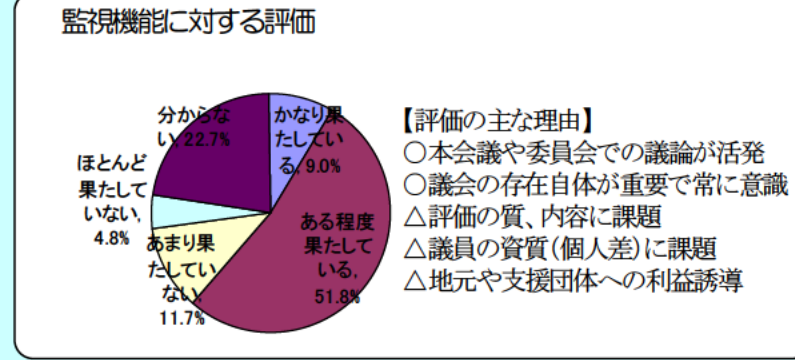
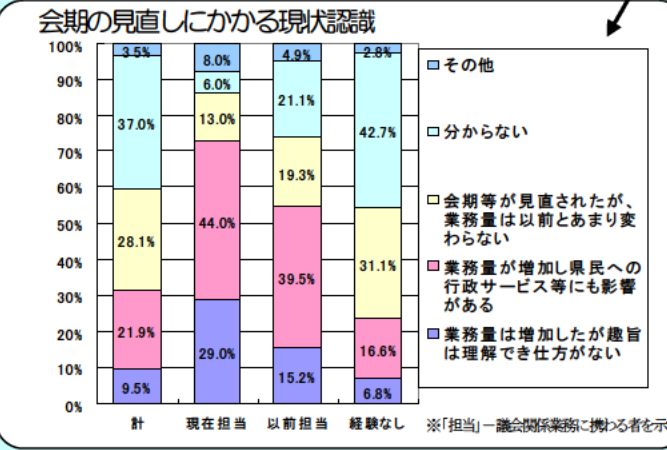
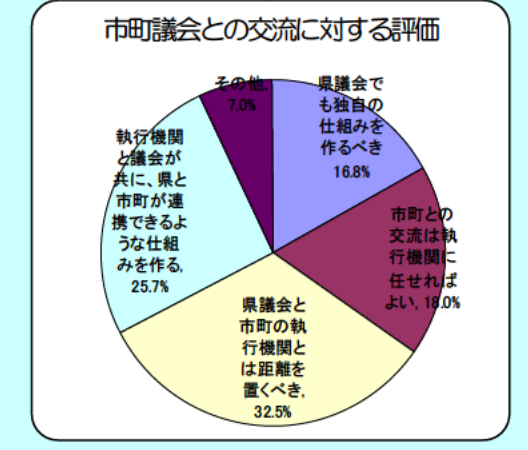
会期等の見直し
＜効果あり＞議論の場の充実(参考人、公聴会) 専決処分への対応、議会独自の議会招集
＜効果なし＞会議が多くて多忙(議員活動に制約) メリハリがない、議員間討議は充実していない等

議員間討議
＜充実＞テーマ設定した政策討論会議、意見書や請願など
＜不十分＞討議に不慣れ、論点が不明確、委員会では不十分、会派の制約あり、時間的余裕がない

議会活性化の条件整備への意向
○議員報酬や政務調査費の見直し
○議会事務局の強化 ○議員秘書の配置

方向性の一致

■□ 執行機関職員 □■



■□ 県民 □■

県議会の役割はあまり知られていない
 県議会への関心が低い
 県議会に民意が反映されていない

開かれた議会運営を求める意向

■□ 県議会 □■

県議会は既に十分開かれている
 市町議会との交流・連携について課題認識
 議員間討議の充実 ←(関連)→ 会期の見直し

県議会報告会
 一般出前講座
 など

県議会と市町議会との交流・連携を通じた
 ○住民ニーズの把握
 ○地域課題の共有等 により

会期の開催だけでなく、議会活動
 全体のバランスとメリハリが必要

政策決定、監視・評価(52%)、次いで政策立案(20%)への意向が強い

■□ 執行機関職員 □■

議会の役割を再検討する必要がある
 ○監視・評価に専念すべき
 ○議決責任についての検討を
 ○開かれた議会のさらなる取組をすべき
 県議会の監視機能に対する評価は高い

会期の見直しは趣旨を理解しつつも負担感あり
 ○議会担当者ほど影響大

市町議会との交流にかかる意見はさまざま
 ○議会独自のしくみ、執行機関も含めたしくみ等

■□ NPO、大学、シンクタンク □■

県議会の議会改革についての評価

1 開かれた議会について
 ○県民には県議会の役割が理解されておらず、関心もない
 ○県民との意見交換など双方向の機会がない

2 戦略計画の議決対象化について
 ○県議会による計画の決定を懸念
 ○県民意見の十分な反映を求める

3 県議会議員について
 ○特定地域や団体等の利益代表となっている
 ○県民の意見をもっと聞いてほしい
 ○さらなる資質向上を求める

県議会の政策立案についての意見

1 これまでの県議会との連携
 ○連携するという視点が双方になかった
 ○執行機関や市町議会との連携はある

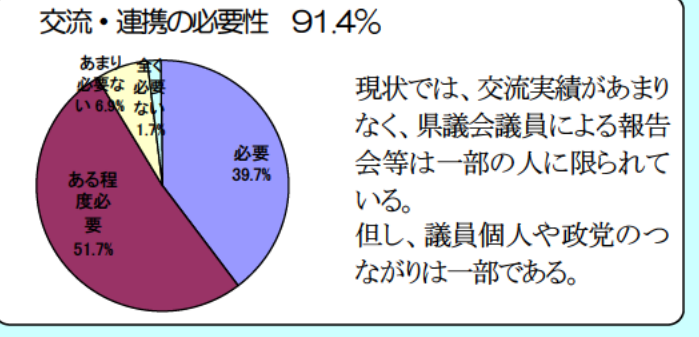
2 今後の具体的な連携方策について
 ○勉強会の開催
 ○特定テーマで専門性を生かした議論への参加
 ○民意把握や事例収集、調査等の支援
 ※政務調査費を勉強会や調査委員などに活用を

3 県議会と連携する際の課題
 ○特定の議員や政党との関わりは敬遠する傾向
 ○議会全体で連携の受け皿を
 ○ボランティアでの関わりには限界あり

その他 ○NPOを推進する根拠条例の必要性 ○NPOに対する県議会議員の関心の低さ

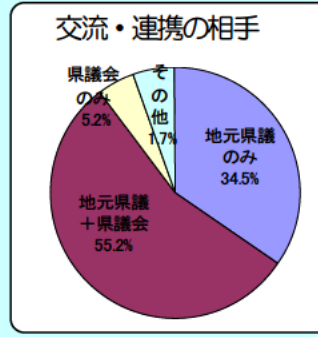
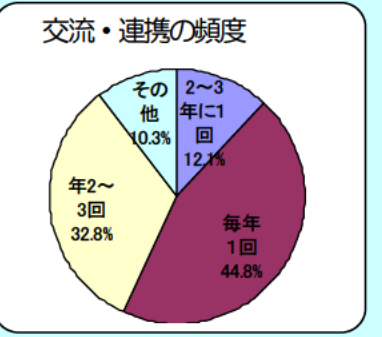
■□ 市町議会 □■

日常的に住民と接している市町議会は、住民ニーズや地域課題を把握しているとの認識



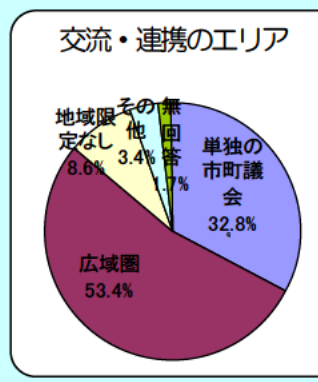
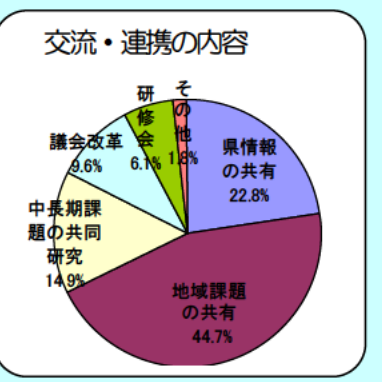
【取組例】

- 全議員による議会報告会 (伊賀市) 38地区、議員4~5名×6班 市民との情報共有、意見交換など
- 会派や議員有志による議会報告会等 (名張市、尾鷲市、南伊勢町など)



【理由】

- 政党・会派による交流だと、参加できる議員に制約がある。
- 地元議員だけだと議員個人の対応となり、県議会での政策議論に結びつかない。
- 地元議員だけだと、地域のことしか議論できない。また言いにくい場合もある。



【理由】

- 29市町議会単位の交流だと、地域の要求・要望が中心になってしまう。

【意見提案】

- 市町議会と地元県議会議員との交流については、市町議会側がそうした場を設けていく必要がある。

県議会に対する期待・要望

- 医療、福祉、教育などの暮らしのセーフティネットの構築について、市町を補完する県の役割を発揮してほしい。(県立病院だけの議論では不足)
- 広域的課題を共同で議論すべき。(過疎、地域振興、鳥獣害、病院など)
- 地域課題にかかる要望事項への対応と説明をしてほしい。

県議会の議会改革に対する認識

- 二元代表制を意識した知事との権力争いでしかない
- 地域や県民にメリットのある改革が必要
- 県議会の改革内容を知らない
- 議員の定数や報酬を削減すべきである

今後さらに議論すべき主要課題

- ① 広域自治体議会の役割
- ② 市町議会との交流・連携の在り方
- ③ 「開かれた議会」の効果的な取組方策
- ④ 「会期等の見直し」によるバランスの取れた議会活動の在り方
- ⑤ 議員間討議の充実と議員の資質向上
- ⑥ 議会活動、会派活動、議員活動の役割と関係の整理